社会貢献

OKIグループは、社会貢献活動の基本理念・基本方針に則り、寄付や地域貢献、社員のボランティア活動支援などを組織的に推進しています。より幅広い活動を行うため、NGO/NPOと広く交流・協働し、国内外での活動を強化しています。

東日本大震災への対応

OKIグループは2011年3月に発生した東日本大震災で被災された方々の救援および被災地復興のために、表に示す支援を行いました。

海岸での清掃作業

このうち復興支援ボランティア活動は、株式会社損害保険ジャパン、丸紅株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループと協働で実施し、津波の被害をうけた宮城県七ヶ浜町に10回にわたって社員ボランティアを派遣しました。

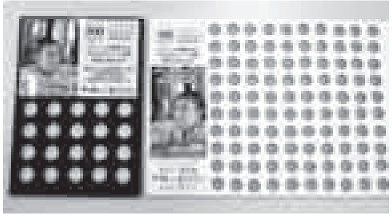
■ 2011年度に実施した支援活動

義援金	1000万円（ネットワーク機器の貸与などをあわせて実施）
社員募金	国内グループ社員による募金（労使共催） 海外グループ社員による募金（各国の赤十字社を通して寄付）
復興支援活動	社員による復興支援ボランティア活動 「OKI蕨文化彩」において東北物産展を開催 NPO「ラオスのこども」と協働し、「三陸文化復興プロジェクト」に絵本などを送付 福島地区のグループ社員・家族を対象に、「竹とんぼ作成＆あやつり人形鑑賞会」を実施 宮城県赤十字血液センターに保冷庫つき血液運搬車を寄贈（100円募金とのマッチングギフト）

寄付型ボランティア「OKI愛の100円募金」

OKIグループは、活動の主旨に賛同するグループ会社（2012年4月時点で22社）の役員・社員から毎月100円の募金を集める「OKI愛の100円募金」により、ボランティア団体の支援などを実施しています。

支援対象のひとつである日本聴覚障害者建築協会（AAJD）は、災害時や急病時に外国人や聴覚障がい者が指差しでからだの様子を伝える「SOSカード」の15言語対応版をOKIと協働で制作し、2011年7月に無料公開しました。また、ラオス・カンボジア・タイの子どもたちの就学を支援する一般財団法人 民際センターでは、100円募金による支援金を活用し、硬貨をはめ込むことで奨学金を集める「ダルニープレート」などを作成しています。


ダルニープレート（左から500円硬貨用、100円硬貨用）。すべて埋まると、1枚で対象国の子ども1人が1年間学校に通えます。

特別支援学校で「多様な働き方」についての出前授業を実施

OKIワークウェルは、2012年2月24日、東京都立墨東特別支援学校において、中高生14名を対象にキャリア教育の出前授業を実施しました。授業は同社が開発したシステム「ワークウェルコミュニケータ for スクール」によって東京都立城南特別支援学校と共有し、同校の生徒7名もネットワーク経由で授業に参加しました。

出前授業の様子

東京都教育委員会はキャリア教育推進の取り組みとして、2010年度から両校を含む都立肢体不自由特別支援学校3校を研究校に指定しています。今回の出前授業はその取り組みへの支援として行われたもので、OKIワークウェル社長および同社の在宅勤務社員の2名が講師となり、ITを活用した障がい者の多様な働き方や仕事の体験談を語りました。

倫理および社会的責任に関するシンポジウムの運営を支援

プリンタの販売を行うOKIシステムズ・イベリカのポルトガル・オフィスは、2011年4月にリスボンで開催された「倫理および社会的責任に関するシンポジウム」（主催：リスボン大学ISCTEビジネススクール、CIS※）を、プリンティングパートナーとして支援しました。このシンポジウムは、組織の意思決定プロセスにおける倫理と社会的責任について最新の研究成果を集め、実践的な議論を行うために開催されたもので、世界各国から集まった研究者たちが、2日間にわたって議論を交わしました。OKIはプログラムやポスター、パンフレット、参加者のバッジや昼食券などのプリントサービスを行い、シンポジウムの運営を支援しました。

※ CIS：Centre for Social Research and Intervention